

今から66年前(昭和20年)の新聞を読むと・・・

大阪市の「浮浪者」1万人、餓死者続発、闇市整理・・・

生活保護法はまだなく、対応できる施設は自彊館だけだった・・・と

1945年、昭和20年というとき、日本が戦争に負けた年で、今から66年前。私の生まれる5年前から、大昔のことです。

この年で有名な出来事として、誰でもが思いつくのは、天皇の「玉音放送」のことだと思えます。多くの国民は、ラジオで戦争の終わりを知ったというのが通説になっています。

しかし、それはどうも事実ではないようです。

8月15日朝日新聞を見ると、「帝国再建に未曾有の聖断・忝き大詔を拝す」という大見出しの下に、「朕深く世界の太勢と帝国の現状とに鑑み・・・」で有名な玉音放送の内容が全文掲載されています。題字下には、政府が「戦後対策委員会」の設置を決めたと報じられています。

ラジオ放送は15日正午ですから、朝日新聞を読んだ人は、内容を事前に知っていた事になります。朝刊が、朝に配られ、店頭で売られているという、現在の常識で考えれば、での話ですが、その当時、新聞は昼過ぎにしか売られていなかったとすれば、通説通りになるのですが、さて、事実は何?

当時、萩之茶屋1丁目と2丁目はほぼ空襲で丸焼け。秋頃から今池市場や東田町、霞町付近で警察と地元の顔役が協定を結んだ闇市がある状態。

大阪市内の「戦災浮浪者」は1万人とも言われていました。乏しい物資の配給制度はありましたが、「町籍(住んでいる町への居住登録)」のない人は、配給すら受けられませんでした。9月67名、10月69名という餓死者が出る状況にありま

困っている人が利用できるのは何かというと、施設に入るしかなかったようですが、市の施設は、法の定めで「行路病人」だけ、もう少し緩やかに利用できたのが自彊館というわけで、頼りにされたのですが、定員枠いっぱいになすすべなく、個々人の踏ん張りだけが頼り、運が悪ければ餓死という状況が続きます。その後、戦後復興・経済成長で、大きな混乱は修まります。それが、戦後史です。

でも、2000年(平成12)年の前には、市内ホームレス1万人の時代があり、今も炊き出し・夜間宿所があります。昔のように、経済拡大は望めず、生活保護法があるのが現在の救いなのですが、あなた、どう思われますか?

1945年＝昭和20年11月23日／殖えゆく餓死者／大阪の浮浪者1万人／（朝日新聞）

「瑞穂の国」日本は飢えつつある、暗澹たる「死の行進」が徐々にではあるが既に始まっているのだ。飢餓にたおれる人の数は日を逐うて増えつつある。

大阪警察局 情報係 最近の調査によると 本年8月以降の大阪市内における餓死者の状況は次の通りで次第に増加の一途を辿っている。8月60名、9月67名、10月69名で 男女別に分けると 男150名、女46名で 男の餓死者が圧倒的に大多数を占めている、11月は完全な調査が行われていないが 15日現在における大阪駅付近だけでも既に42名の餓死者という驚くべき数字だ、死亡原因を探求してみると 悉くが絶食、食不足、粗悪食事、不規律、不衛生的摂食によるもので 文字通り栄養失調に起因した餓死者である。

大阪駅前広場をはじめ天六、鶴橋駅、野田阪神、天王寺駅、飛田遊廓付近、難波駅から寺田町などの浮浪者群を総合するとざっと1万名になろう。しかもこれらの約半分は復員軍人であるという事実を凝視せねばならぬ。復員者達が口を揃えて語るころは 当初立派な体をもつて労働に就労する希望と意思とを持っていた、けれども工場で働く日給2円や3円ではどうしても生きていけない、彼らが帰還当初駅頭では小さな握り飯は2個が10円、真面目な会社働きでは到底食べていけない、彼らは闇市場に入って買い出しの仕事を受け持った、買い出し手当は大抵1日30円、だがこれだけでは1日の食にも足りない、1個15円のパン2個しか食べられないのだ。

1945年＝昭和20年10月25日／連合軍「清掃」の命令／餓死者続出、不潔極る大阪駅

98師団バスナー少佐は早速同所（大阪駅）を視察し 見かねた末24日曾根崎署を訪れ伝染病発生のおそれありとその善処かたを申し込んできた、それに対し山内曾根崎署長は語る

ガード下の清掃は市と連絡済みで 明日にでもやりたいと思っているが 浮浪者の問題は困った問題である、現在収容所としては西成区で財団法人の自彊会があるだけで、これとても収容人員250名、しかも男だけである、今までは全部そこへ送っていたが同所も満員になっている始末、市の経営している収容所は長柄にある弘済院をはじめ若干あるが、これは私が 巡査当時から行われている古い法律が適用され「行路病人」だけしか収容されないという始末である、結局、市がこれら浮浪者収容施設の増設に積極的の だ かり出してもらうのが解決の一方法である。

1945年＝昭和20年11月30日／アベノの闇市整理

西成署では阿部野橋 中心の闇市を整理のため 29日付近の顔役と協議の結果△露天を交通妨害にならない空き地にひっこめ、道路を清掃し 予定地として今池市場、霞町及び東田町 周辺の三点に定め、△せり上げ市をおこなわない△主食糧は売らない△露天賭博をやめるなどを協定した

1945年＝昭和20年12月6日／戦災者を御慰問／高松宮殿下

ついで浪速区一市営仮設住宅の新築状況を御視察、そこから今宮の自彊館へーここでは戦災浮浪者として大阪駅をさまよううち助けられた人たち150名が、いまは白の作業着も力強く、再生の喜びでお迎えする、ついで・・・